

暮らしを支える地域公益活動を紹介します。

キラリ★社会福祉法人

明石市社会福祉法人連絡協議会（ほっとかへんネットあかし）

小型電動カートによる地域住民の移動支援

「ほっとかへんネットあかし」は、平成29年5月に設立され、明石市内28の社会福祉法人が連携して地域福祉の推進を図っている。

今回は、急な坂道や狭い道路がある地域の高齢者らの移動支援のため、市との協働による小型電気自動車「グリーンスローモビリティ※」の実証調査の取り組みを中心に紹介する。※時速20km未満で公道を走る4人乗り以上の小型電気自動車

施設職員が運転する小型電気自動車。住民にも好評だ



行政との協働による新たな移動支援

明石市東部の東朝霧丘と朝霧山手町周辺は、道路が狭くコミュニティバスの巡回が難しい地域で、高齢化も進んでいる。両地域の高齢化率は、それぞれ32%、38%に達し、急な坂道もあることから高齢者らの移動支援が求められていた。

このような中、市は国土交通省の支援を受け、令和元年10月30日から11月22日までの間、誰でも無料で利用できる小型電気自動車「グリーンスローモビリティ」の実証調査を開始。最寄りのバス停やスーパー、公園などを結ぶ2つのルートを実行するにあたり、ほっとかへんネットあかしに運行管理と運転手の派遣について協力依頼があった。

これを受けて、ほっとかへんネットあかしは、地域公益活動の一環として協力することを決め、構成法人である明石恵泉福祉会の介護職員らを運転手として派遣した。期間中は、月曜日から土曜日（祝日を除く）の毎日2ルート、10時～15時台の計5便に無償で対応し、住民からは大好評を得た。

住民の声を聴き、公益活動を展開する

この移動支援の実証調査では、高齢者や乳幼児を抱える親子ら延べ360人が利用した。利用目的は、買い物約7割と高く、最寄りのバス停への移動も2割を超えるなど、住民のニーズに応える取り組みとなった。また、運転手を務めた介護職員は「住民の方と接する中で、改めて地域に目を向ける良い機会となった」と振り返る。

ほっとかへんネットあかしの金尾会長は、「新たな試みとして行政とともに実証できたことは今後の活動につながる。引き続き、住民の悩みや困りごとに応えられるよう取り組みたい」と話す。

ほっとかへんネットあかしでは、移動支援のほかにも、災害時における職員派遣などの体制の構築、被災地支援のための義援金活動の展開など、各種の活動を通じて社会福祉法人のネットワークを強め合いながら地域に根差した公益的な活動を展開している。

一丸となって街頭募金を実施。多くの施設職員が参加する



ほっとかへんネットあかし
事務局：社会福祉法人明石市社会福祉協議会
TEL：078-924-9105
URL：<http://hottokahen-akashi.com/>